

「第2回 BAMIS 国際フォーラム」報告書

筑波大学人間総合科学研究科博士後期課程2年次大藏研究室所属 三ッ石 泰大

2012年2月12日(日)から2月14日(火)にわたり、韓国のKyung Hee大学において開催された「第2回 BAMIS 国際フォーラム」に参加してきた。筆者は担当教官である大藏倫博先生の補佐という立場での参加であった。

2月12日(日)

2月の韓国はとても寒いと聞いていたが、我々の行った際は運が良かったのか、日本と同程度であった。韓国に到着して、まず向かったのはテルン選手村であった。日曜日であったことからトレーニングをしている選手はそれほど多くなく、10以上にわたる競技ごとの専用トレーニング施設や、展示室を見学した。共同トレーニングルームが大変広く、フリーウェイトや油圧式のトレーニングマシーンが敷き詰められていたのが印象的であった。



トレーニング&リハビリ施設

2月13日(月)

滞在2日目は、メインイベントであるBAMIS国際フォーラムが朝からおこなわれた。筆者はビデオ係を担当し、発言者の顔を追っていた。今回のフォーラムでは競技スポーツや、タレント発掘、スポーツ哲学など、多岐にわたるテーマから構成されており、興味を持つていくことができた。また、日本で学位を取得してから10年以上経過している韓国の先生も多い中、流暢な日本語で冗談を交えながら話されていたのが印象的であった。



大藏倫博先生の発表



全体写真

国際フォーラム終了後は、Kyung Hee 大学の学生会館において、筑波大学を卒業し韓国で活躍されている先生方との交流会 KATS (Korean Alumni of Tsukubarian Sports Scientists) kick off MTG が開かれた。おいしい韓国料理に加え、少し炭酸のきいた飲みやすいマッコリも多く用意されていた。会の途中では、筑波大学で学位を取得した韓国の先生たちが一人一人前に立ち、学生時代の思い出や、今後の抱負などをスピーチし、大変和やかな会であった。



豪華な料理（ビュッフェスタイル）



大藏研究室の尹智暎さんのスピーチ

2月14日（火）

滞在最終日は帰路への移動中に休憩のため水原華城へ寄ることができ、興味深い建造物を見学することができた。次回訪れる際は時間をかけて韓国の歴史にも触れて散策したいと感じた。

所感

今回、BAMIS 国際フォーラムに参加して感じたことは、研究領域が近くない人間に対し、自身の取り組んでいる研究を理解させることは大変高度なテクニックが要求されるということである。高度な研究を難しく説明しているようだと、いかにその研究に意義があったとしても相手に伝わらない。そういった意味で、今回発表された先生方は一流の研究者なのだと強く感じた。